

令和 6 年 6 月 16 日現在

機関番号：12613

研究種目：基盤研究(B)（一般）

研究期間：2019～2022

課題番号：19H01497

研究課題名（和文）高校生男女の大学学部選択要因の実証分析：将来的な女性活躍推進への提言に向けて

研究課題名（英文）Empirical Analysis of Factors Influencing College Major Choice: How to Increase Women's Representation in STEM

研究代表者

臼井 恵美子 (USUI, Emiko)

一橋大学・経済研究所・教授

研究者番号：50467263

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 17,270,000円

研究成果の概要（和文）：本研究では、高校生の大学進学時の選択に関する社会調査を実施した。高校卒業後の進路や、学業、生活の展望について、高校生を対象にアンケートで回答を求めた。それから得られたデータに基づいて、女子の理工系分野への進学が伸び悩む原因や、女子生徒たちが今持っている問題意識などを、多角的視点から追究した。そうした分析に基づいて、我が国の将来を担う若い世代が、人生の早い段階から抱えている意識や考え方を把握し、そうして得られた事実証拠に基づいて、今後の女性活躍推進に対して有効な政策を具体的に提言した。

研究成果の学術的意義や社会的意義

高校生とその保護者を対象にしたアンケートの結果、高校1年生の段階において、理工系分野への進学を考える女子生徒は、男子生徒に比べて著しく少なかった。理工系分野における女性の活躍を推進するためには、若年時の意思決定が本人の長期的なキャリアに大きく影響するため、そうした早い段階からの、若い人々や保護者への教育や啓蒙活動を強化することが不可欠であることが明らかになった。

研究成果の概要（英文）：In this study, we surveyed high school students in Japan regarding their future career plans and academic and life prospects. We investigated the reasons behind the low female enrollment in STEM (science, technology, engineering, and math) fields in Japan. Our analysis reveals the mindset of high school students and the younger generation overall, highlighting gender differences in their career pursuits from an early age. Based on our findings, we provide evidence-based policy recommendations to effectively increase women's representation in STEM fields in Japan.

研究分野：労働経済学

キーワード：教育経済学 経済政策

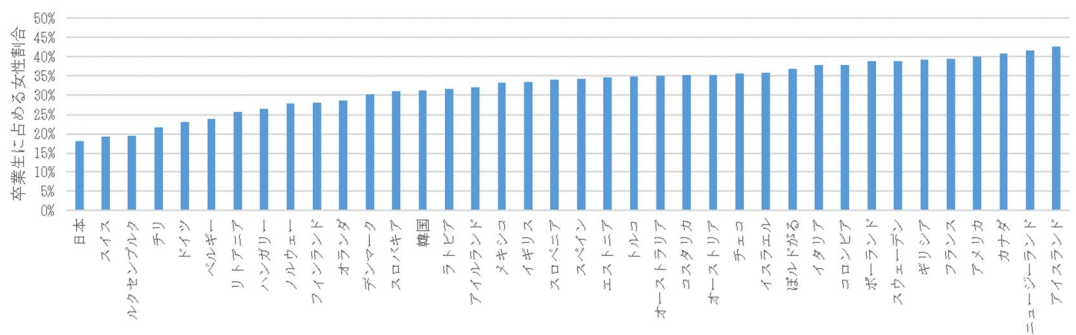
科研費による研究は、研究者の自覚と責任において実施するものです。そのため、研究の実施や研究成果の公表等については、国の要請等に基づくものではなく、その研究成果に関する見解や責任は、研究者個人に帰属します。

1. 研究開始当初の背景

近年、日本における男女間の大学進学率の格差は縮小しているが、大学(学部)における専攻分野には男女の違いが認められる。OECD加盟国における2021年のSTEM(科学・技術・工学・数学)分野の大学卒業生に占める女性割合をみると、日本は18%と最も低くなっている(下図参照)。

日本の高校生が大学に進学する際の学部選択における男女の違いが、学校教育終了後の業種選択や雇用形態の違いをもたらしており、さらに、それが男女間の所得格差につながっている。日本経済の今後の成長のためには、女性を含む多様な人材の活躍がさらに求められている。そのためにも、男性割合が高い理工系分野において女性を増やすことは喫緊の課題である。しかしながら、日本においては、こうした大学の学部選択における男女差が生じる要因については、実証分析の蓄積が依然少なく、理工系分野において女性割合を高める有効な政策についても十分に解明されていない。

大学の学部卒業生に占める女性割合



出典 <https://stats.oecd.org>

2. 研究の目的

日本では、大学に進学するときには、まず学部を選択して受験することになる。そのため、将来、理工系分野でキャリアを築きたいなら、大学進学時には理工系学科を受験する必要がある。そのように理工系学部に進学するためには、高校においては、文系コースではなく理系コースを選択して、理科や数学科目を履修し重点的に学ぶ必要がある。従って、理工系分野で女性が活躍することを推進するためには、女性は、まず、高校の早い段階から、将来は理工系学科に進学したいという期待と希望を持つことが重要である。そのため、高校生の早い段階から、女子生徒の大学学部選択の期待を把握し、理工系分野に関心を持っている女子生徒の状況をフォローアップすることが必要である。

3. 研究の方法

本研究では、高校生段階での大学学部選択と、将来の働き方や生活に関するアンケート調査を、高校1年生とその保護者を対象に実施した。このアンケートは、学校側のご協力のもと、生徒たちが高校生の段階において描いている将来の学部選択や将来の働き方、それに学校卒業後の社会生活に対する期待について質問した。東京都の進学指導重点校の内の6校におけるアンケートの結果、高校1年生の段階において、大学を受験する際に理系(物理・化学)選択で大学受験をすることを考えている男子学生は5割を占めていたが、その割合は、女子学生の場合は2割であった。さらに、受験科目の選択肢の中で、理系(物理・化学)選択は最も低い選択肢と位置付ける女子生徒が4割であった。

大学進学の際に理工系分野への進学を考えている女子生徒は、男子生徒に比べて著しく少ないことが分かった。また、女子生徒とその保護者は、将来進学する学部として、工学部を考えていなかった。女子生徒は、男子生徒ほどには工学部進学の可能性について保護者に相談していなかった。なお、伝統的な社会の価値観があるのではと想定していたが、実際には、男女で異なる進路選択の意思決定には大きな影響はなかった。

従って、理工系分野における女性の活躍を推進するためには、若年時の進学先に関する意思決定が、本人の長期的なキャリアに大きく影響することを踏まえ、女子高校生の理工系分野への関心が早い段階から低いに対応するためには、若い人々への教育や啓蒙活動を強化することが今後の女性の活躍に必須であることが明らかになった。

理工系分野と対比して、医学系分野における男女のキャリア形成の違いについても併せて分析した。医学系においては、もともと外科系診療科の医師に占める女性医師の割合は低いものの、近年は、女性医師の中で外科系診療科を選ぶ割合は増えてきており、基本領域専門医資格やサブ

スペシャリティ領域専門医資格の取得状況の男女差は大幅に改善されており、女性医師のキャリア形成が進展していることが明らかになった。(なお、医師は、初期臨床研修を終えてから初職診療科を選び、そこで3～5年の後期臨床研修後、基本領域専門医資格を取得し、さらに専門分化したサブスペシャリティ領域専門医資格を取得する。)そのため、将来的には、医学系においては、女性医師の活躍がさらに進む方向が見え始めている。しかし、女子の理工系進学に関しては、前述のように、すでに高校1年生の段階で、将来の理工系進学についての意識に大きな男女差がある。理工系分野における女性活躍については、まだ多くの課題が残っている。

4. 研究成果

理工系分野における女性の活躍を推進するためには、若年時の意思決定が本人の長期的なキャリア形成に大きく影響する。そのため、若い人々や保護者への教育や啓蒙活動を強化することが不可欠であることが明らかになった。女性が理工系分野でキャリアを築くためには、女性が高校1年生になる以前の段階から、理科や数学科目を勉強したいという意識を醸成することが望まれる。

そうした状況を創り出すためには、小中学校における理科教育の改革が望まれる。これは、科学技術振興機構(JST)が2007年から実施している「理科支援員配置事業」制度により、教員の理科指導力が向上し、児童の理科への関心度が高まるという成果が見られていることから検証されている。さらに、本研究で実施した小中学生の保護者を対象としたアンケートから、子どもに理科教育を受けさせるかについて、保護者が子どもの性別により異なる対応をしていることが明らかになった。女子が理工系分野に進むことに関心を持つようにするためには、保護者の意識改革も重要である。このように、高校以前からの取組が、女性の理工系分野での活躍のために必須であることが明らかになった。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計26件（うち査読付論文 12件 / うち国際共著 7件 / うちオープンアクセス 12件）

1. 著者名 Molina Teresa, Usui Emiko	4. 巻 211
2. 論文標題 Female labor market conditions and gender gaps in aspirations	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 Journal of Economic Behavior & Organization	6. 最初と最後の頁 165 ~ 187
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1016/j.jebo.2023.04.031	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 該当する
1. 著者名 Kim Seik, Usui Emiko	4. 巻 59
2. 論文標題 Employer learning, job changes, and wage dynamics	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 Economic Inquiry	6. 最初と最後の頁 1286 ~ 1307
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1111/ecin.12980	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 該当する
1. 著者名 Hirakawa Marie, Usui Emiko, Mitsuyama Nahoko, Oshio Takashi	4. 巻 20
2. 論文標題 Chances of pregnancy after dropping out from infertility treatments: Evidence from a social survey in Japan	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 Reproductive Medicine and Biology	6. 最初と最後の頁 246 ~ 252
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1002/rmb2.12377	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -
1. 著者名 白井恵美子, 佐藤繭香, 松下美帆	4. 巻 73(4)
2. 論文標題 新型コロナウイルス感染症の影響下におけるワーク・ライフ・バランス	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 経済研究	6. 最初と最後の頁 358-391
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Yuko Ueno, Emiko Usui	4. 巻 202
2. 論文標題 The Effects of Providing Childcare on Grandmothers' Employment and Mental Health in Japan	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 The Economic Analysis	6. 最初と最後の頁 125-147
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 小塩隆士, 白井恵美子, 光山奈保子, 平河茉璃絵	4. 巻 -
2. 論文標題 不妊治療と労働生産性 治療活動と仕事の両立のために	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 サービス産業の生産性と日本経済	6. 最初と最後の頁 -
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 白井恵美子, 周燕飛, チャールズ・ユウジ・ホリオカ, 前野彩, 渡邊昌一	4. 巻 10
2. 論文標題 ポストコロナの家計経済を考える	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 経済経営研究叢書	6. 最初と最後の頁 -
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 白井恵美子	4. 巻 736
2. 論文標題 残された男女間格差解消のために: ノーベル経済学賞2023 クラウディア・ゴールディン	5. 発行年 2024年
3. 雑誌名 経済セ(ミナー)	6. 最初と最後の頁 42-49
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Teresa Molina, Emiko Usui	4. 巻 -
2. 論文標題 Does gender inequality in today's labor market perpetuate gender inequality in future generations?	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 IZA World of Labor	6. 最初と最後の頁 -
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 臼井恵美子	4. 巻 39
2. 論文標題 政策分析インタビュー 満足度指標の政策への活用について	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 Economic & Social Research	6. 最初と最後の頁 1-4
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Mason Andrew, Lee Ronald, members of the NTA Network	4. 巻 48
2. 論文標題 Six Ways Population Change Will Affect the Global Economy	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 Population and Development Review	6. 最初と最後の頁 51 ~ 73
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1111/padr.12469	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 該当する

1. 著者名 Ando Hirofumi, Kantavong Pennee, Matsukura Rikiya, Kiettikunwong Narong	4. 巻 48
2. 論文標題 Aging in Northeast Thai Communities: Who are and Will Be Supporting the Aged?	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 Ageing International	6. 最初と最後の頁 708 ~ 727
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1007/s12126-022-09484-8	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 該当する

1. 著者名 Hertog Ekaterina、Fukuda Setsuya、Matsukura Rikiya、Nagase Nobuko、Lehdonvirta Vili	4. 巻 191
2. 論文標題 The future of unpaid work: Estimating the effects of automation on time spent on housework and care work in Japan and the UK	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 Technological Forecasting and Social Change	6. 最初と最後の頁 122443 ~ 122443
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1016/j.techfore.2023.122443	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 松倉力也	4. 巻 72 (10)
2. 論文標題 国民移転勘定 (NTA) が示す新しい少子高齢化分析: 日本のケースを中心に	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 統計	6. 最初と最後の頁 4-11
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 松倉力也	4. 巻 72 (10)
2. 論文標題 国民移転勘定 (NTA) の成り立ちと現状	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 統計	6. 最初と最後の頁 2-3
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Kim Seik、Usui Emiko	4. 巻 59
2. 論文標題 Employer learning, job changes, and wage dynamics	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 Economic Inquiry	6. 最初と最後の頁 1286 ~ 1307
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1111/ecin.12980	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 該当する

1. 著者名 臼井恵美子・羽衣杉雄	4. 巻 71(4)
2. 論文標題 医師専門医資格取得の男女差と医療現場の課題	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 経済研究	6. 最初と最後の頁 1-29
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Hirakawa Marie, Usui Emiko, Mitsuyama Nahoko, Oshio Takashi	4. 巻 20
2. 論文標題 Chances of pregnancy after dropping out from infertility treatments: Evidence from a social survey in Japan	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 Reproductive Medicine and Biology	6. 最初と最後の頁 246 ~ 252
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1002/rmb2.12377	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Ogawa Naohiro, Matsukura Rikiya, Lee Sang-Hyop	4. 巻 46
2. 論文標題 Women's changing work arrangements, career paths, and marital fertility in Japan	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 Advances in Life Course Research	6. 最初と最後の頁 100375 ~ 100375
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1016/j.alcr.2020.100375	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 該当する

1. 著者名 Queiroz Bernardo L., Matsukura Rikyia, Sambt Joze	4. 巻 -
2. 論文標題 Social Security Around the World	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 Encyclopedia of Gerontology and Population Aging	6. 最初と最後の頁 1 ~ 8
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1007/978-3-319-69892-2_529-1	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 該当する

1. 著者名 松倉力也	4. 巻 4(2)
2. 論文標題 3つの人口配当：国民移転勘定（NTA）を応用した人口年齢構造変化と経済の影響	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 社会保障研究	6. 最初と最後の頁 178-196
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

1. 著者名 小川直宏、松倉力也	4. 巻 -
2. 論文標題 中年における年齢別認知機能水準と認知疾病患者の将来展望	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 ひょうご震災記念21世紀研究機構 少子高齢化の制度設計 研究調査報告書	6. 最初と最後の頁 50-64
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 小川直宏、松倉力也、伊藤ゆかり	4. 巻 -
2. 論文標題 出生と家族・仕事の関係	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 ひょうご震災記念21世紀研究機構 少子高齢化の制度設計 研究調査報告書	6. 最初と最後の頁 65-70
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 小川直宏、松倉力也	4. 巻 -
2. 論文標題 介護と家族・仕事の関係	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 ひょうご震災記念21世紀研究機構 少子高齢化の制度設計 研究調査報告書	6. 最初と最後の頁 71-74
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Ishimura Nana, Inoue Kosuke, Maruyama Shiko, Nakamura Sayaka, Kondo Naoki	4. 巻 5
2. 論文標題 Income Level and Impaired Kidney Function Among Working Adults in Japan	5. 発行年 2024年
3. 雑誌名 JAMA Health Forum	6. 最初と最後の頁 e235445 ~ e235445
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1001/jamahealthforum.2023.5445	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 奥村綱雄	4. 巻 34(2)
2. 論文標題 医療経済領域における部分識別研究の進展	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 医療経済研究	6. 最初と最後の頁 51-68
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.24742/jhep.2022.05	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

〔学会発表〕 計34件 (うち招待講演 11件 / うち国際学会 6件)

1. 発表者名 臼井恵美子
2. 発表標題 さらなる女性活躍を目指して-理系・医療分野において
3. 学会等名 アジア太平洋フォーラム・淡路会議「国際フォーラム」(招待講演)(国際学会)
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 Emiko Usui
2. 発表標題 Effects of Mandatory Residencies on Female Physicians' Specialty Choices: Evidence from Japan's New Medical Residency Program
3. 学会等名 小樽商科大学・土曜研究会
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 臼井恵美子
2. 発表標題 新型コロナウイルス感染症の影響下におけるワーク・ライフ・バランス, 労働政策フォーラム「ワーク・ライフ・バランス研究の新局面 データ活用基盤の整備に向けて」
3. 学会等名 独立行政法人労働政策研究・研修機構/日本学術会議経済学委員会ワークライフバランス研究分科会
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 臼井恵美子
2. 発表標題 特別講演「女性医師のキャリア選択と医療現場の課題」
3. 学会等名 第46回日本外科系連合学会学術集会(招待講演)
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 臼井恵美子
2. 発表標題 招待講演「女性医師のキャリア選択と医療現場の課題」
3. 学会等名 日本経済学会 2021年度春季大会(招待講演)
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 Jessica Ya Sun, Emiko Usui
2. 発表標題 How do Age-related Policy Reforms Promote Elderly Employment in Singapore?
3. 学会等名 Society of Labor Economics Conference(国際学会)
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 臼井恵美子
2. 発表標題 Effects of Mandatory Residencies on Female Physicians' Specialty Choices: Evidence from Japan's New Medical Residency Programs
3. 学会等名 東京労働経済学研究会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 臼井恵美子
2. 発表標題 女性医師のキャリア選択と医療現場の課題
3. 学会等名 北海道医師会（招待講演）
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 臼井恵美子
2. 発表標題 女性医師のキャリア選択と医療現場の課題
3. 学会等名 東京大学特別公開講座（招待講演）
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 Emiko Usui
2. 発表標題 Effects of Mandatory Residencies on Female Physicians' Specialty Choices: Evidence from Japan's New Medical Residency Program
3. 学会等名 Asian and Australasian Society of Labour Economics（国際学会）
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 臼井恵美子
2. 発表標題 新型コロナウイルス感染症の影響下におけるワーク・ライフ・バランス, 労働政策フォーラム「ワーク・ライフ・バランス研究の新局面 データ活用基盤の整備に向けて」
3. 学会等名 一橋大学経済研究所定例研究会
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 Emiko Usui
2. 発表標題 How do Age-related Policy Reforms Promote Elderly Employment in Singapore?
3. 学会等名 一橋大学経済研究所定例研究会
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 Emiko Usui
2. 発表標題 How do Age-related Policy Reforms Promote Elderly Employment in Singapore?
3. 学会等名 慶応義塾大学応用経済学ワークショップ
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 松倉力也、臼井恵美子、奥村綱雄
2. 発表標題 ソサエティ5.0に向けた制度設計第5回研究会「ソサエティ5.0に向けた人的資源:STEM分野への人材確保に関する研究」
3. 学会等名 公益財団法人 ひょうご震災記念21世紀研究機構(招待講演)
4. 発表年 2021年

1 . 発表者名 Setsuya Fukuda, Ekaterina Hertog, Vili Lehdonvirta, Rikiya Matsukura, Nobuko Nagase
2 . 発表標題 Intergenerational transfer of care work: How technology would meet with future care demand in Japan and the UK?
3 . 学会等名 British Society for Population Studies 2023 Conference (国際学会)
4 . 発表年 2023年

1 . 発表者名 Rikiya Matsukura and Setsuya Fukuda
2 . 発表標題 Shall we be released from housework?: The economic impact of automation in unpaid work
3 . 学会等名 Building Sustainable Generational Economies: The 14th Global Meeting of the NTA Network (国際学会)
4 . 発表年 2023年

1 . 発表者名 Setsuya Fukuda and Rikiya Matsukura
2 . 発表標題 The Future Demand-Supply Gap in Unpaid Work in Japan and the UK: How Population Ageing Affects Intergenerational Transfers of Unpaid Work?
3 . 学会等名 Building Sustainable Generational Economies: The 14th Global Meeting of the NTA Network
4 . 発表年 2023年

1 . 発表者名 Rikiya Matsukura
2 . 発表標題 For Every Age: Intergenerational Economy: Dialogue with Asian Parliamentarians, A Prescription for Population Aging,: New Policy Perspectives Using NTA
3 . 学会等名 United Nations Population Fund (UNFPA) and Asian Population and Development Association (APDA) (招待講演)
4 . 発表年 2022年

1. 発表者名 松倉力也
2. 発表標題 日本における人口年齢構造変化と経済成長：人口配当によるアプローチ
3. 学会等名 第630回人口学研究会定例会 人口学研究会（招待講演）
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 Setsuya Fukuda, Ekaterina Hertog, Vili Lehdonvirta, Rikiya Matsukura, Nobuko Nagase
2. 発表標題 The Future of Unpaid Work: How would automation transform time spent on domestic and care work in the UK and Japan?
3. 学会等名 WEAI Virtual 96th Annual Conference
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 Rikiya Matsukura
2. 発表標題 A Prescription for Population Aging: New Policy Perspectives Using NTA
3. 学会等名 For Every Age: Intergenerational Economy: Dialogue with Asian Parliamentarians, United Nations Population Fund (UNFPA) and Asian Population and Development Association (APDA)（招待講演）
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 Setsuya Fukuda, Rikiya Matsukura
2. 発表標題 Intergenerational Transfer of Care Work: How Technology would Meet with Future Care Demand in Japan and the UK?
3. 学会等名 Society for the Advancement of Socio-Economics (SASE)
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 Setsuya Fukuda, Rikiya Matsukura
2. 発表標題 Intergenerational Transfer of Care Work: ,How Technology would Meet with Future Care Demand in Japan and the UK?
3. 学会等名 Work and Family Researchers Network 6th Biennial Conference
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 Emiko Usui
2. 発表標題 The Effects of Providing Childcare on Grandmothers' Employment and Mental Health in Japan
3. 学会等名 内閣府ESRI国際共同研究
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 Sun, Jessica Ya
2. 発表標題 Effect on Elderly Employment of Supply- and Demand-side Government Intervention in Singapore
3. 学会等名 一橋大学・産業労働ワークショップ
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 Emiko Usui
2. 発表標題 Career Development of Female Physicians in Japan
3. 学会等名 International Conference on Science and Technology for Sustainability, Science Council of Japan (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 森木美恵、松倉力也
2. 発表標題 Sexual desire among people in the reproductive ages: Sexual activity with/without a partner
3. 学会等名 日本人口学会第72回大会
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 Rikiya Matsukura
2. 発表標題 開発途上国における少子化の進展とその要因：男性生殖機能低下の観点から
3. 学会等名 JICA緒方研究所
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 Emiko Usui
2. 発表標題 The Elderly 's Employment Situation in China, Japan, and Singapore: Evidence from the Longitudinal Panel Surveys
3. 学会等名 Singapore-Japan Academic Forum on Ageing
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Taiyo Fukai, Hidehiko Ichimura, Rikiya Matsukura, Naohiro Ogawa
2. 発表標題 Changing Cognitive Performance and the Untapped Work Capacity of Old Persons in Japan
3. 学会等名 Stanford-Hallym Asia-Pacific Innovation Conference (招待講演)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 森木美恵、松倉力也
2. 発表標題 夫婦間の性交渉の実態と第二子不妊について：「全国調査仕事と家族 2007&2010」より
3. 学会等名 日本人口学会第71回大会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 松倉力也、小川斉宏、佐藤謙
2. 発表標題 訪問・通所リハビリテーションを受ける介護保険認定者に関する分析
3. 学会等名 日本人口学会第71回大会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 森木美恵、松倉力也
2. 発表標題 セックスレス人口の頻度と関連要因
3. 学会等名 人口学研究会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 松倉力也
2. 発表標題 3つの人口配当
3. 学会等名 国立社会保障人口問題研究所NTA/NTTAプロジェクト会議
4. 発表年 2020年

〔図書〕 計2件

1. 著者名 Naohiro Ogawa, Hidehiko Ichimura, Taiyo Fukai, Rikiya Matsukura	4. 発行年 2021年
2. 出版社 Stanford University Press	5. 総ページ数 250
3. 書名 Demographics and Innovation in the Asia-Pacific	

1. 著者名 チャールズ・マンスキー、奥村綱雄、高遠裕子	4. 発行年 2020年
2. 出版社 ダイヤモンド社	5. 総ページ数 348
3. 書名 マンスキー データ分析と意思決定理論 不確実な世界で政策の未来を予測する	

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究分担者	松倉 力也 (MATSUKURA Rikiya) (00409145)	日本大学・経済学部・教授 (32665)	
研究分担者	根本 二郎 (NEMOTO Jiro) (20180705)	放送大学・愛知学習センター・特任教授 (32508)	
研究分担者	中村 さやか (NAKAMURA Sayaka) (20511603)	上智大学・経済学部・教授 (32621)	

6. 研究組織（つづき）

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究分担者	奥村 綱雄 (OKUMURA Tsunao) (90323922)	横浜国立大学・大学院国際社会科学研究院・教授 (12701)	

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究協力者	本田 衛子 (HONDA Eiko)		

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関			
米国	University of Hawaii			
韓国	Korea University			